

4<sup>th</sup>



ゴール  
ドッジ



2018Season

第4回ゴールドッジ大会

<大会報告書>

2019年3月5日

一般社団法人日本ドッジビー協会



## 【開催要項】

---

主催	日本ドッチビー協会 DBJA
主管	千代田区ドッチビー協会 DBAC
日程	2019年2月24日(日曜日)
場所	千代田区立麴町中学校 体育館 千代田区平河町2-5-1 東京メトロ線 永田町駅5番出口より、徒歩3分 赤坂見附駅より、徒歩7分
協賛	文化シャッター株式会社 / ワタミ株式会社
部門/資格	年齢性別区別なし(小学生高学年以上を推奨)
表彰	一般部門/小学生部門 各 優勝・準優勝

## 【競技方法】

---

7チームを3チームの【小学生部門】、4チームの【一般部門】の2つに分けます。

<全試合共通>

- 試合人数 全試合 4人 vs 4人

<予選>

【小学生部門】 = 総当りリーグ戦を2回戦、全6試合で順位を決定します。

【一般部門】 = 総当りリーグ戦をおこない、順位を決定します。

<最終順位決定>

両部門ともに、1位と2位による決勝戦をおこないます。

一般部門は3位決定戦をおこないます。

一般部門の4位と小学生部門の3位が対戦します。

<一般決勝、以外の全試合>

- 試合時間 7分の前・後半。ハーフタイムは90秒。
- 同点扱い 予選リーグ=引き分け、順位決定=PT戦。

<一般決勝>

- 試合時間 12分の前・後半。ハーフタイムは120秒。
- 同点扱い 5分一本通しの延長戦。

## 【参加チーム一覧】

---

<一般部門>	人数
●mishmash	9
●NDCヤソップ	8
●style	5
●M. D. Cウィル	6

<小学生部門>	
●NDCウソップ	8
●大乱闘中	12
●M. D. Cペディ	9

◆ <u>チーム総合計</u>	: 7チーム
内訳／一般部門	4チーム
／小学生部門	3チーム

◆ <u>参加選手総数</u>	: 57名
内訳／一般部門	28名
／小学生部門	29名

▲ <u>大会関係者総数</u>	: 23名
内訳／チーム監督コーチ	8名
／主要スタッフ	15名

◆ <u>大会関与者総合計</u>	80名
-------------------	-----

◆ <u>観戦・引率保護者数</u>	約30名
--------------------	------

大会関係者 総合計	約110名
-----------	-------

## 【講評】

残寒の中にも、かすかな春の息吹が感じられるようになり、この頃、快晴の中、千代田区立麹町中学校の体育館を会場に2018シーズン最後となるゴールドッチ大会が開催されました。

2018シーズンの参加チーム数、表彰チームを振り返りますと、以下のような結果となっております。



	日時	参加チーム数	表彰チーム
第1回	6月3日	7チーム	①M.D.Cウィル ②style
第2回	9月9日	10チーム	①style ②ちゃばんず ③M.D.Cペディ
第3回	11月18日	7チーム	①style 敢闘賞=TTV 殊勲賞=ねぎちる



そして2018シーズン第4回目となります今回は、7チームに参加いただき、  
【一般部門】①style ②M.D.Cウィル、  
【小学生部門】①M.D.Cペディ ②NDCウソップという結果になりました。  
表彰チームの皆さん、おめでとうございます！



また、2018シーズンの全大会を千代田区立麹町中学校で実施できたことについて、千代田区ドッジビー協会には心より感謝いたします。ありがとうございます。

さて、今大会の試合内容について振り返ってみると、各チーム、パス回しの速さや正確さなど、かなりの技術的向上が見られます。特に一般部門で決勝に進出したstyleやM.D.Cウィルは状況に応じて、カーブスローやアップサイドダウンスローなどを使い分ける状況判断能力に長けていたように思いました。

ディスクドッチが活動の中心となっているチームや選手は、カーブスローを自在に扱えるように練習するとゴールドドッチでも活躍できるようになるかも、かもしれません。



2018 シーズンを通しての所感としては、参加チームが少なく固定化してきたことは否めません。毎大会、新規参入チームがあることは嬉しく良い傾向ですが、昨年、一昨年と比較してみるとチームの入替えが複数みられます。全体的な技術向上がみられるため、新規参入チームとのレベルの差が広がっているのかもしれない。大会日程の都合等があるとしても、

一度離れてしまうと戻りにくい要因がある可能性もあるため、探ってみたいと思います。



また、運営面において、ゴールドドッチ大会では副審を参加各チームに担ってもらうことが通常化していますが、その点について実際に副審を務めた方々に話を聞いてみたところ、

- ・ホイッスルを鳴らすことに不安がある
- ・資格保有者にジャッジしてもらいたい(資格制度を整えてほしい)
- ・試合直後に副審をするときは注意力散漫になることがある
- ・副審をすることによってルールを理解できる
- ・兄弟チームがジャッジをすることは疑問 といった意見でした。

一方、副審についてどう見ているのか、主審を務めるDBJAスタッフからの意見も聞いてみました。

- ・理想としては主審と逆サイドのダブルディフェンス、ラインクロスは見て欲しい→逆サイドに関しては、主審と同等の意識でいて欲しい
- ・試合前に副審と打ち合わせができないのが辛い
- ・主審でも全面をジャッジできるように意識している、  
「今のは微妙だな」と思う時もある
- ・ファウルだと思った時には、もっと積極的にホイッスルを鳴らして。
- ・副審をするとレベルアップにつながると思う



新年度が始まる、2019年 4 月以降には、G-TR (GoalDodge-Teacher&Referee) の資格試験を会場と日程の調整がつき次第、実施することになります。

皆さんからいただいた、これらの意見も踏まえゴールドドッジのレベルアップにつながる資格制度を制定したいと思います。皆さん積極的にご参加ください!



最後に前回同様、参加チームの紹介を行いたいと思います  
今回は常連チームであるNDCと、今回初参加のmishmashです。

<チーム紹介①>

- チーム名称 NDCヤソップ・ウソップ
- 設立年 2014年
- 所属人数 約30人
- 代表者 江川直樹
- 活動拠点 西新井

●スローガン

「世代を超えて、明るく楽しく元気よく」

●チーム自己紹介

2013年に開催された東京国体のデモスポとして行われたドッジビーをきっかけに、それまでバラバラであった子供会をまとめ、関東大会に出場することを目的として、活動を開始しました。毎週日曜日の13:00~15:00に練習を行い、ドッジビー以外にもビーチボールバレーなどを行っています。



●ゴールドドッチについて

楽しいところは？

- ➡ シュートが決まった後の爽快感  
コートが広くてたくさん走れるところ

気をつけていることは？

- ➡ 人がいないところに動くポジション取り



●DBJA より

毎大会参加してくださるNDCは、大人が中心のヤソップ、子供が中心のウソップ、共にとても楽しそうにゴールドドッチをしてれています。

チームのスローガンがプレーにも表れていますね！

これからも抜群のチームワークと、さすがのパスワークで魅了してください！

<チーム紹介②>

●チーム名称 mishmash

●設立年 2019年

●所属人数 12人

●代表者 中村真博

●スローガン 「とにかく楽しく」

●チーム自己紹介

代表の中村が SNS に動画をアップし、興味を持ってくれた友人を集めたチームです。今回の大会のために作ったチームなので、「寄せ集め」を意味する「mishmash」というチーム名にしました。とにかくドッジビーの楽しさを知ってもらい、ドッジビーを通じて交友が広がれば大成功です。



●ゴールドドッチについて

感想は？ ➡ とても楽しかった 年齢・性別関係なくできるのが良い

難しかったこと ➡ ウルトラスターより投げるのが難しい ダブルディフェンスしないディフェンス

最後に一言 ➡ 次は一勝したいです！

●DBJA より

今回の参加チームの中で最も盛り上がっていたチームだったのではないのでしょうか。

ダブルディフェンス、気をつけていても、やっちゃいますよね。

次回は、一勝する姿を見られること、楽しみにしています！